

2022年度 学校自己評価表

中長期目標(学校ビジョン)
<p>1. 鳥取県内有数の進学校としての地位の確立</p> <p>①国公立大学・難関私大現役合格率6割以上確保 (すべての生徒が妥協せず本当に行きたい大学に進学する)</p> <p>②進研模試、校外模試において学年平均偏差値60以上確保 (偏差値70以上の生徒3名以上)</p> <p>③各種検定の規定級以上を全生徒が取得する。</p> <p>2. 「学力面で優れた生徒＝人格的にも優れた生徒」 という湯梨浜学園の生徒像確立</p>

今年度の重点目標
<p>1. 学習指導の充実と進路指導の強化</p> <p>◇国公立理系医・歯・薬・獣学科等の現役合格を目指す。 旧帝大レベル3名以上、国公立文系準難関大以上の15名以上の現役合格を目指す。</p> <p>◇各学年、学力推移、進研模試における各教科及び3教科総合全国偏差値平均を年間で3ポイントアップ、偏差値平均50以上、偏差値60以上5名以上の実現。</p> <p>◇各種検定取得率アップを目指す。規定級を超える生徒数の増加を目指す。 英検、数検、漢検、N検準1級以上2名、理検1級2名以上の上位級取得者をだす。 英検110名、数検50名、漢検50名、理検20名、N検20名以上の合格者をだす。</p> <p>◇速読講座、スタディサプリ、土曜個別講座など多様な補習体制で生徒の弱点克服を目指す。</p> <p>◇SDG sを主体とした課題研究に全校を挙げて取り組む。</p> <p>2. 学校運営の充実と教育環境の整備</p> <p>◇中部地区からの生徒流出を防ぐべく、高校からの入学生を4名以上獲得する。</p> <p>◇学校通信、学級通信など各種広報紙の定期的発行、HPやFB、BLEND、You Tube、Zoomなどをつかったの情報提供迅速化、頻繁な更新に努める。</p> <p>3. 生徒指導の徹底と教育相談の充実</p> <p>◇「あいさつ」「返事」「掃除」を指導の3つの柱に据え、規範意識を高めて、社会に必要とされる人間形成に努める。</p> <p>◇適宜個別面談などを通し、生徒理解に努め、教育相談、スクールカウンセラーとの連携で悩みの解決や相談にあたる。</p> <p>4. 人権教育の推進</p> <p>◇あらゆる場面、あらゆる教科で、すべての先生が人権教育視点に立った教育を行う。</p> <p>◇いじめのない学校をめざす</p>

評価は S(達成) A(ほぼ達成) B(あと一歩) C(未達成) です。

評価項目	具体的項目	中間評価	達成状況(年度末)と次年度の課題	評価
1. 学習指導の充実と進路指導の強化	国公立理系医・歯・薬・獣学科等、国公立文系準難関大以上の現役合格		上記、重点目標数値を達成できた。次年度は今年度と比べて生徒数が10名減少するが、よりいっそう生徒一人ひとりに時間をかけ進路実現を果たせるよう働きかけていく。	S
	校外模試における数値目標達成	B	学年によって達成度にばらつきがある。模試対策に時間をかけすぎるあまり、生徒が各教科の本質的なものを理解しているのか、ただ模試慣れをして点数が上がっているだけなのか不明瞭な部分がある。次年度は過去問対策をすることなく模試に挑ませたい。	B
	各種検定取得率アップ	C	英検108/110名、数検50/50名、漢検37/50名、理検4/20名、N検8/20名の結果となった。数検以外は達成できず。上位級取得者に関しては英検準1級3名、理検1級1名となった。	C
2. 学校運営の充実と教育環境の整備	各分掌活動の充実、PTAとの連携、地域との交流を図る	B	コロナ禍にありながら、クラスターを出すことなくすべての学校行事が実施できた。次年度はより対外的な活動が増加することが見込まれるので、保護者の方々、地域の方々と更なる連携を図る。	A
	HP、FB、Blendなどでの積極的情報提供	A	HPを一新し、情報発信に努めた。インスタグラムで生徒の日々の何気ない生活風景なども配信することができた。今後はHP、Facebook、インスタなどに配信する情報の役割分担が必要となる。	S
3. 生活指導の徹底と教育相談の充実	生徒指導の3つの柱を、教職員間でのブレなく徹底する	C	あいさつ、そうじ、返事については行事ごとに実施している来校者の方々へのアンケート結果により良好といえる。また学校評価アンケートでの保護者への聞き取りでもこの項目については非常に良い結果となっていた。	A
	生徒との教育相談の機会を充実させ、自己肯定感を醸成する	B	教育相談が必要な生徒だけでなく、悩みを抱えておられる保護者の方々に対しても外部機関とつなぎ、負担の軽減に努めたが、まだまだ全職員が生徒・保護者に対して機会を充実させているとは言えない。次年度は研修の機会などを増やしスキルアップに努める。	C
4. 人権教育の推進	学校生活でのあらゆる場面で、人権教育的視点にたつ	B	人権教育に関して、県の人権教育課にも協力を仰ぎ、学活、LHRを実施した。月に1度の全校集会においても道徳教育に視点を置いた活動を取り込んだ。	A
	いじめアンケート、ケース会議を実施し、生徒の心の動きを敏感に察知する取り組みを設ける	C	いじめアンケート、ケース会議も滞りなく行った。任意の記名式にすることで、早急に対応を望む生徒の声を吸い上げることに努めた。	B